

薬局管理栄養士の認知度及び薬剤師との連携に向けた実態把握
—薬局利用者・両職種を対象とした質問紙調査—

仲村修平^{1*}, 邑瀬 誠¹, 深津英人², 日高彩夏¹, 松井 洸²,
阿部真也², 山口 浩², 野村和彦², 富永佳子³

**Creating new value in community pharmacies through cooperation between registered dietitians
and pharmacists: A bidirectional survey of patients, pharmacists, and registered dietitians**

Shuhei Nakamura^{1*}, Makoto Murase¹, Hideto Fukatsu², Ayaka Hidaka¹, Hikaru Matsui²,
Shinya Abe², Hiroshi Yamaguchi², Kazuhiko Nomura², Yoshiko Tominaga³

This study aimed to identify the challenges in developing a cooperative model between pharmacists and registered dietitians in community pharmacies. To achieve this, a survey was conducted among 160 users of community pharmacies with registered dietitians to assess their awareness of dietitians and their demand for nutritional guidance. Additionally, a survey was conducted with 350 pharmacists and 186 registered dietitians to investigate the implementation and perceptions of nutritional guidance. The results showed that approximately 52% of the users were aware of registered dietitians, with their primary expected role being the prevention and management of lifestyle-related diseases. While 64.4% of the pharmacists had experience in providing nutritional guidance, there were no significant differences related to years of experience or the number of medication counseling sessions. The reasons cited for not providing nutritional guidance included "lack of confidence in providing guidance" and "difficulty in considering complications." Furthermore, 84.5% of the pharmacists felt the need for registered dietitians to provide guidance, and about 60-70% of the registered dietitians expressed a relatively strong intention to offer nutritional guidance. Registered dietitians who were proactive in providing guidance demonstrated both a strong professional commitment and desire to make use of their skills. However, heavy workloads were noted as a barrier, and those less willing to provide guidance expressed concerns about "insufficient knowledge" and "lack of experience." These findings suggest that strengthening healthcare delivery in community pharmacies would require improving the awareness of registered dietitians and establishing a stronger collaborative framework between pharmacists and dietitians. Additionally, enhancing the training and support for registered dietitians, along with creating an environment that allows them to focus on their duties, is expected to improve the overall quality of health management services provided by community pharmacies.

Key words: Community Pharmacy Services, pharmacist,
registered dietitian, questionnaire, text data

Received September 2, 2024; Accepted October 25, 2024

¹ Shuhei Nakamura, Makoto Murase, Ayaka Hidaka 株式会社杏林堂薬局

² Hideto Fukatsu, Hikaru Matsui, Shinya Abe, Hiroshi Yamaguchi, Kazuhiko Nomura 株式会社ツルハホールディングス

³ Yoshiko Tominaga 新潟薬科大学薬学部 社会薬学研究室

* 連絡先：株式会社杏林堂薬局 仲村修平

〒430-0928 静岡県浜松市中区板屋町 111-2 浜松アクトタワー13 階

Tel: 053-453-5111 Fax: 0545-66-0412 E-mail: nakamurash.pharm@gmail.com

1. 緒 言

地域住民に最も身近な医療提供施設である薬局は、生活者が日常的に必要とする医療・衛生材料や介護関連用品、栄養補助食品等、医薬品以外の保健・健康関連物品の供給を通して、生活者の日々の健康管理、健康増進に関わることができる立場にある¹⁾。保険薬局に期待される役割は年々拡大傾向にあり、厚生労働省が2015年に策定した「患者のための薬局ビジョン」²⁾において、対物業務から対人業務へのシフトならびに、地域包括ケアへの貢献が掲げられており、かかりつけ薬剤師・薬局がかかりつけ医だけでなく、栄養士、ケアマネージャー、訪問看護師らとの連携によりこれらを実践していく構想が示されている。さらに、日本薬剤師会が提唱する「薬剤師の将来ビジョン」³⁾においても、第五世代の調剤業務内容として「他職種との連携」が掲げられており、本稿のテーマである、薬剤師・管理栄養士間の連携も、地域住民のトータルサポートを行う上で非常に効果的であるといえる。

近年、管理栄養士を配置する保険薬局が見受けられるようになった。2020年に行われた保険薬局の全国調査では、週4日以上勤務する管理栄養士が在籍すると回答した薬局が約1割程度あり³⁾、一部は無料栄養相談や栄養セミナー・イベント等の専門業務に従事している等の報告があった⁴⁾。また栄養相談は、薬局薬剤師も、薬剤の効果や副作用リスクの評価を目的として、服薬指導時に臨床検査値を聴取し、必要に応じて栄養指導を行うことがある。しかし、令和4年度改訂の「薬剤師養成のためのモデル・コア・カリキュラム」⁵⁾においても、衛生薬学の一分野として栄養学や食品衛生学について学習するのみで、知識を活用した調理や栄養指導の実践に該当する項目はないことから、薬剤師ができる栄

養指導の内容は個々で得た知識に委ねられているといえる。

一方、管理栄養士は栄養学については基礎、応用、臨床、公衆の観点から深く学ぶとともに、栄養教育論も修めることが求められる立場である⁶⁾。患者に対する個別指導は卒業後の研修や就業場所での実務経験などは不可欠であるが、糖尿病診療ガイドライン2019においては、管理栄養士による食事療法の指導が有効であるというステートメントが掲げられている（推奨グレードA）⁷⁾ことから、管理栄養士による栄養指導の効果を伺い知ることができる。

管理栄養士と患者のリレーションシップに関して、管理栄養士・栄養士の就業実態に関する報告では、病院勤務者が24.8%であるのに対して、診療所・クリニック等の勤務者は2.9%と少ないことが分かっている⁸⁾。さらに、病院もしくは専門医クリニックで治療を受けている生活習慣病患者は約半数であり、管理栄養士による栄養指導を受けたことがあるのは約4割との報告がある⁹⁾。よって、管理栄養士が常駐している保険薬局では、普段栄養指導を受けていない患者等に対し、薬剤師と協働して管理栄養士が適切な栄養指導を行うことで、疾患の改善や悪化予防に寄与することが期待され、薬局管理栄養士の配置が進められていることが推察される。

薬局管理栄養士の現状として、文献や学会等でのいくつかの報告がある。管理栄養士の配置のない薬局の来局者を対象とした調査¹⁰⁾では、管理栄養士配置薬局の認知度は12%にとどまっているものの、栄養バランスが整った食事（58.3%）、食事と生活習慣病の関係（58.0%）についての支援の要望が高かった。また、管理栄養士と薬剤師を対象とした調査¹¹⁾では、薬剤師の70%以上が地域薬局での栄養サポートの重要性を認識している一方、管理栄養士の56.1%が自分の職業能力を十分に発揮できていないと

回答していた。さらに、保険薬局・ドラッグストアに対する管理栄養士・栄養士の配置状況と就業の実態に関する調査⁴⁾では、74.1%の管理栄養士が調剤事務や調剤補助として勤務しており、「栄養士業務に専念できない／時間がない」、「他業務との両立が困難」という認識を持っていることが明らかとなった。なお、この調査は回答した67社のうち、ドラッグストア併設型保険薬局を有する企業は11社であった。

これらの先行研究において、管理栄養士・薬剤師及び利用者を対象とした双方向への調査報告はなかった。そこで、薬剤師－管理栄養士連携モデル構築に向けた課題の抽出とその解決のための示唆を得ることを目的として、管理栄養士の配置に関する認知度と需要ならびに薬剤師による栄養指導の実施状況について調査を行った。

補足として、本調査を実施した法人では、ドラッグストア併設型保険薬局を主業態とし、管理栄養士はドラッグストアの所属として、主に店舗従業員の人員マネジメントを主業務としている。従って、他の報告で多くを占めている、調剤専門保険薬局に見られるような、調剤事務や調剤補助を兼務する者は少数であり、患者と管理栄養士が直接関わる機会が比較的少なくなる可能性も考えられる。このような事項も本調査の特徴として付記しておく。

2. 方法

1. 薬局利用者を対象とした管理栄養士の認知度・需要調査

1.1. 対象者と調査方法

本調査は、管理栄養士が在籍するドラッグストア併設型保険薬局に来局し、協力を同意を得られた利用者160人を対象に、無記名の自記式質問紙調査を行った。調査対象者数は、各店舗の最低目標を10人とした。そのうち、更

なる調査協力に同意が得られた3店舗では、処方箋応需枚数月1,000枚以下の店舗では30人、月1,000枚以上の店舗では40人を目標とした。なお、この3店舗利用者110人には、需要に関する質問内容を質問紙へ追加し調査を行った。

1.2. 調査項目

全対象者について、1.年代、2.性別、3.薬局管理栄養士の在籍を知っているか(知っている/知らない)の質問を行った。質問内容を追加した3店舗では、4.薬局勤務の管理栄養士に期待すること、相談したいこと(複数選択可)、5.(前問で「病気の予防・改善のための食事」を選択した場合)どのような病気について相談したいか(複数選択可)、6.無料栄養相談会に参加してみたいか(はい/いいえ)を加えて質問した。

1.3. 分析方法

統計解析にはEZR¹²⁾を使用し、記述統計を算出した。なお、EZRはRコマンドの機能を拡張した統計ソフトウェアである。3.については年代別の傾向性の有無についてCochran-Armitageの傾向検定を行い、 $p < 0.05$ を有意差ありと判定した。

1.4. 調査期間

2020年8月15日から同年12月15日までとした。

1.5. 倫理的配慮

本調査はツルハHD学術研究発表審議会の承認を得て行った。(承認番号:HD2021019)

2. 薬剤師・管理栄養士を対象とした栄養指導に関する意識調査

2.1. 対象者と調査方法

同一法人において、調剤に従事している全

ての薬剤師350人、及び店舗業務に従事している全ての管理栄養士186人に対し、社内メールにてGoogle formsを用いた調査を実施した。なお、本社勤務など、直接調剤業務や店舗業務を行っていない薬剤師・管理栄養士は調査対象から除外した。

2.2. 調査項目

2.2.1. 薬剤師を対象とした意識調査

下記の通り、回答者属性、栄養指導及び管理栄養士に対する質問を行った。

- ・セクション1 (基本情報) ...1. 臨床薬剤師としての経験年数, 2. 1日あたり平均服薬指導数, 3. 所属店舗の営業形態, 4. 所属店舗の管理栄養士在籍有無, 5. 服薬指導時の栄養指導の経験(「あり」と答えた場合はセクション2へ, 「なし」と答えた場合は, セクション3へ)
- ・セクション2 (薬剤師による栄養指導について) ...1. どのような時に栄養指導を行うか(複数選択可), 2. 患者一人当たりで費やせる栄養指導時間, 3. 食事内容の聴取の有無, 4. 摂取エネルギーコントロールが必要な疾患を有する患者に対し, 摂取エネルギー計算を行っているか, 5. 栄養指導を行うにあたり, 困難と感じた点(複数選択可)
- ・セクション3 (栄養指導を行わない理由) ...1. 栄養指導を行わない理由(複数選択可)
- ・セクション4 (管理栄養士による栄養指導について) ...1. 服薬指導時に管理栄養士に栄養指導を依頼したいと考えたことはあるか, 2. 生活習慣病患者の服薬指導時に栄養指導を実施する場合, どのようなタイミングでの管理栄養士の介入が妥当と考えるか, 3. 栄養指導を依頼する場合の不安な点(複数選択可), 4. (3.を選択した場合のみ) 不安な点を解消できるような提案(自由記述), 5. 管理栄養士による在宅患者訪問栄養指導が薬局で調

剤報酬として認められた場合に参加してほしいか, 6. (5.回答者のみ) 管理栄養士の在宅参加についての具体的な意見, 7. これから管理栄養士に期待したいこと(自由記述)

2.2.2. 管理栄養士を対象とした意識調査

下記の通り、回答者属性、現在の業務内容及び栄養指導に関する質問を行った。

- ・セクション1 (基本属性) ...1. 管理栄養士として勤務している合計年数区分(他社・他医療機関で勤務していた年数も含める), 2. 性別, 3. 栄養食事指導勉強会参加の有無, 4. 所属店舗の営業形態, 5. 現職での栄養指導実施経験について
- ・セクション2 (栄養指導について) ...1. 二次予防を目的とした指導を行いたいのか, 2. 1.で選択した回答の理由(記述), 3. 一次予防を目的とした指導を行いたいのか, 4. 3.で選択した回答の理由(記述), 5. 在宅患者訪問栄養食事指導が薬局で認められた場合に, 参加したいのか, 6. 栄養指導を行う際に不安な点(自由記述)

2.3. 分析方法

いずれも統計解析にはEZRを使用し、 $p < 0.05$ を有意差ありと判定した。

2.3.1. 薬剤師に対する意識調査

各調査項目について記述統計を算出した。さらに、セクション1の5.について、1.から4.をフィッシャーの正確確率検定を用いて比較した。

2.3.2. 管理栄養士に対する意識調査

各調査項目について記述統計を算出した。また、セクション2の6.で得られた自由記述データについてはユーザーローカルAIテキストマイニングツール(<https://textmining.userlocal>.)

jp/)を用いて名詞および共起回数の出現頻度の解析を行った。本ツールは User Local 社のウェブサイト上で利用することができ、様々な調査研究で用いられている¹³⁻¹⁶⁾。

2.4. 調査期間

2021年9月16日から同年10月15日までとした。

2.5. 倫理的配慮

本調査はツルハ HD 学術研究発表審議会の承認を得て行った。(承認番号:HD2021019)

3. 結果

1. 薬局利用者を対象とした管理栄養士の認知度・需要調査

回答者数160人のうち有効回答者数は156人(回収率97.5%)であり、女性が112人(71.8%)を占めた。管理栄養士在籍認知の有無について、年代別の結果を表1に示した。回答者全体では、「知っている」と回答した割合が51.9%であった。20代以下(68.8%)および30代(59.1%)がやや高かったものの、年代別の傾向性検定では有意ではなかった。

次に、管理栄養士に相談したい内容・疾患名の回答内訳をそれぞれ、図1および図2に示した。「病気予防・改善」の回答が最多(43人, 40.6%)となり、管理栄養士に相談したい疾患は、高血圧(23人, 21.7%)、脂質異常症(14人, 13.2%)、糖尿病(14人, 13.2%)といった、生活習慣病についての相談に需要があった。その他の疾患として、肥満症や胆石症、アレルギー性疾患、関節痛が挙げられていた。

2. 薬剤師・管理栄養士を対象とした栄養指導に関する意識調査

薬剤師350人、管理栄養士186人のうち有効回答者数は薬剤師278人(回収率79.4%)、管理栄養士84人(回収率45.1%)であった。

2.1. 薬剤師を対象とした調査

回答者属性は表2の通りであった。経験年数は11年目以上(109人)、1日あたり平均服薬指導数は11~20件(155人)が最頻値となった。服薬指導時に栄養指導を実施したことがあるのは64.4%(179人)と回答した。また、これについて、経験年数および1日あたり平均服薬指導数(多忙さ)、所属店舗の営業形態、所属店舗の管理栄養士在籍との関連を調査したが、いずれも有意差は認められなかった。

次に、栄養指導を実施したことがある薬剤師(179人)に対する追加質問の回答結果を表3に示した。それぞれ最頻の回答は、栄養指導を行う基準として「薬剤師が必要と感じ、かつ時間に余裕がある場合」(88人, 49.2%)、栄養指導を費やせる時間は「5分以内」(142人, 79.3%)、食事内容の聴取は「必要に応じて行う」(149人, 83.2%)、摂取エネルギー計算の有無は「行わない/患者からの求めがない」(111人, 62.0%)であった。

一方、栄養指導を実施したことがない薬剤師(99人)における栄養指導を行わない理由(複数選択可)としては、「指導に自信がない」(18人, 18.1%)、「患者からの求めがない」(14人, 14.1%)、「医療機関との指示の食い違いを避けるため」(13人, 13.1%)、「合併症を考慮した指導が困難」(11人, 11.1%)、「時間がかかる」(10人, 10.1%)、「管理栄養士に全例依頼する」(9人, 9.1%)などが挙げられた。

表 1 管理栄養士の認知度（薬局利用者回答、n=156）

回答者年代	回答者数（人）	認知者数（人）	認知度（%）	P 値
20 代以下	16	11	68.8	0.209
30 代	22	13	59.1	
40 代	28	13	46.4	
50 代	33	15	45.5	
60 代	32	18	56.3	
70 代以上	25	11	44.0	-
合計	156	81	51.9	

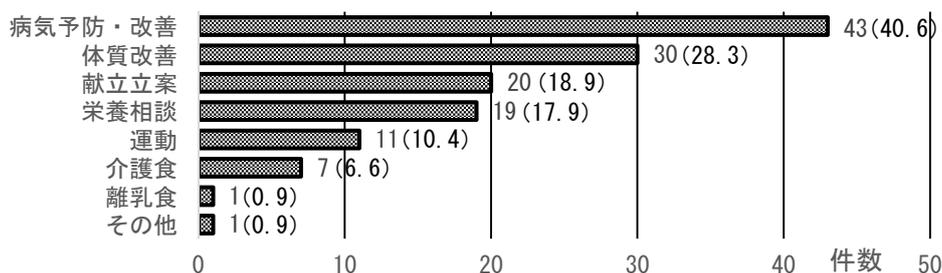


図 1 管理栄養士に相談したい内容（薬局利用者回答）

右カッコ内は聴取した 106 名に対する割合 (%)

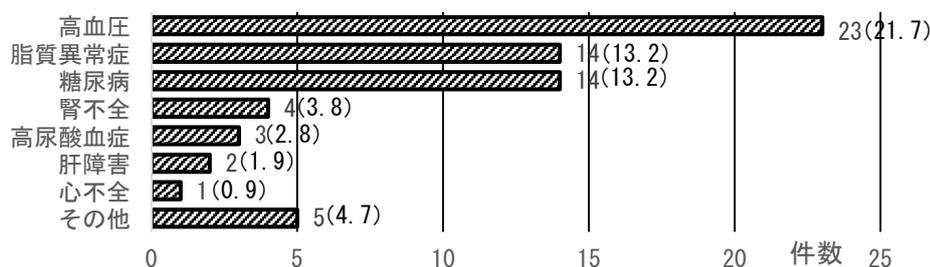


図 2 管理栄養士に相談したい疾患名（薬局利用者回答）

右カッコ内は聴取した 106 名に対する割合 (%)

表 2 回答者属性と栄養指導の実施有無（薬剤師回答、n=278）

項目	回答者数 (人)	割合 (%)	5.服薬指導時の栄養指導の経験		p 値
			あり n=179	なし n=99	
1. 臨床薬剤師としての 経験年数	1-2 年目	39	14.0	23	0.713
	3-5 年目	74	26.6	46	
	6-10 年目	56	20.2	39	
	11 年目以上	109	39.2	71	
2. 1 日あたり 平均服薬指導数	10 件未満	33	11.9	23	0.364
	11~20 件	155	55.7	97	
	21~30 件	62	22.3	44	
	31 件以上	28	10.1	15	
3. 所属店舗の営業形態	ドラッグストア併設型	212	76.3	139	0.466
	保険薬局	66	23.7	40	
4. 所属店舗の 管理栄養士在籍	在籍している	179	64.4	121	0.894
	在籍していない	99	35.6	66	

表3 栄養指導の実施基準および内容（栄養指導の経験ありと回答した薬剤師回答、n=179）

項目	回答者数（人）	割合（%）	
1. 栄養指導を行う基準	薬剤師が必要と感じた場合	53	29.6
	薬剤師が必要と感じ、かつ時間に余裕がある場合	88	49.2
	患者の求めがあった時のみ	37	20.7
	その他（栄養士に依頼）	1	0.6
2. 栄養指導に費やせる時間	5分以内	142	79.3
	6-10分	30	16.8
	11分以上	3	1.7
	わからない/患者毎に異なる	4	2.2
3. 食事内容の聴取	必ず行う	11	6.1
	必要に応じて行う	149	83.2
	行わない	19	10.6
4. 摂取エネルギー計算の有無	薬剤師が必要と感じた場合	7	3.9
	薬剤師が必要と感じ、かつ時間に余裕がある場合	19	10.6
	患者の求めがあった時のみ	42	23.5
	行わない/患者からの求めがない	111	62.0

表4 管理栄養士への栄養指導依頼に対する意識（薬剤師回答、n=278）

項目	回答者数（人）	割合（%）	
1. 管理栄養士に栄養指導を実施してほしいと感じることがあるか	頻繁にある	39	14.0
	よくある	107	38.5
	ときどきある	89	32.0
	ほとんどない	36	13.0
	全くない	7	2.5
2. どのような場合に栄養指導を依頼したいか	薬剤服用期間中に症状・検査値などが改善しないとき	109	39.2
	服薬期間中に症状・検査値が悪化したとき	32	11.5
	薬剤服用開始前から	36	13.0
	患者からの要望に応じて	96	34.5
	服薬指導時の栄養指導は不要	3	1.1
	よくわからない場合による	2	0.7
3. 管理栄養士への栄養指導依頼時における不安な点（複数回答可）	連絡がつかない	32	13.4
	連絡手段がない	49	20.6
	管理栄養士が多忙にみえる	120	50.4
	患者情報を引き継ぐ時間がない	104	43.7
	患者情報の共有・取扱への不安	35	14.7
	管理栄養士の知識量が不安	9	3.8
	勤務店舗に管理栄養士の配属がない	69	29.0
	特になし	1	0.4
	その他	8	3.2
4. 栄養指導依頼時における不安な点を解消できる提案（一部要約・抜粋）	○連絡がつかない ・管理栄養士を調剤事務として配置する		
	○連絡手段がない ・連絡を取る方法を明確化する ・栄養指導への繋げ方をパターン化する必要がある ・管理栄養士へ繋がる内線番号を決めておく		
	○管理栄養士が多忙にみえる ・栄養指導依頼書のようなフォーマットで情報共有できる書類があると良い ・栄養指導専任者が zoom 等を利用し指導する		
	○患者情報を引き継ぐ時間がない ・互いの業務内容の把握が必要		
	○患者情報の共有・取扱への不安 ・定期的なミーティング時間を設ける		
	○管理栄養士の知識量が不安		
	○勤務店舗に管理栄養士の配属がない ・近隣店舗の管理栄養士の在籍状況などを確認する		
	積極的に参加してほしい	61	31.8
	できれば参加してほしい	69	35.9
	どちらともいえない	31	16.2
あまり参加してほしいくない	1	0.5	
参加してほしいくない	0	0.0	
よくわからない	29	15.1	
その他	1	0.5	

※在宅訪問経験者のみ回答、n=192

また、管理栄養士への栄養指導依頼に関する質問への回答結果を表4に示した。薬剤師の立場として管理栄養士に栄養指導を実施してほしいと感じることは、「頻繁にある」「よくある」「ときどきある」を合計すると、235人(84.5%)となり、多くの薬剤師が管理栄養士による栄養指導の必要性を感じていた。具体的な場面としては、「薬剤服用期間中に症状・数値が改善しないとき」(109人, 39.2%)、「患者からの要望に応じて」(96人, 34.5%)という意見が多かった。

最後に、管理栄養士に栄養指導を依頼する際に不安な点として、「管理栄養士が多忙にみえる」(120人, 50.4%)「患者情報を引き継ぐ時間がない」(104人, 43.7%)など、時間に関する懸念が多く挙げられている他、「連絡がつかない」や「連絡手段がない」「店舗に管理栄養士がいない」など、連携手段がないまたは困難であるような回答も挙がっていた。連携手段の対策案として、調剤事務として管理栄養士を配置することや連絡手段の確立、簡便に情報共有ができるようなフォーマットの作成、近隣店舗の管理栄

養士在籍の視覚化・共有等が挙げられていた。

2.2. 管理栄養士を対象とした意識調査

回答者属性は表5の通りであった。また、二次予防を目的とした栄養指導を行うにあたり、受講を課している社内勉強会の参加経験者および受講予定者は54人(64.2%)であった。管理栄養士としての活動は、薬局内栄養相談会への参加数(67人, 79.8%)が最も多く、大規模健康イベント(44人, 52.4%)、子育て世代を対象とした大型イベント(33人, 39.3%)と続き、管理栄養士の職能の一つともいえる疾病予防・進行防止のための栄養食事指導は(24人, 26.2%)であった。

栄養指導の実施意向に関する質問への回答結果を表6、表7に示した。二次予防については「積極的に実施したい」(17人, 20.2%)と、「機会があれば実施したい」(36人, 42.9%)より下回るものの、これらを合算すると53人(63.1%)の回答者が実施したいと回答した。その理由については、「管理栄養士業務を増やしたい」など

表5 回答者属性 (管理栄養士回答、n=84)

項目	回答者数 (人)	割合 (%)	
1.経験年数	1-2年目	28	33.3
	3-5年目	30	35.7
	6-10年目	16	19.0
	11年目以上	10	11.9
2.性別	女性	7	91.7
	男性	77	8.3
3.社内栄養指導勉強会参加の有無	受講済み	31	36.9
	2021年10月以降参加予定	11	13.1
	2022年以降参加予定	12	14.3
	参加がなく、今後も予定なし	30	35.7
4.所属店舗の営業形態	ドラッグストア併設型保険薬局	69	82.1
	ドラッグストア単独店舗	14	16.7
	調剤専門薬局	1	1.2
5.社内での管理栄養士活動参加経験 (複数回答可)	薬局内栄養相談会	67	79.8
	大規模健康イベント	44	52.4
	子育て世代対象大型イベント	33	39.3
	特定保健指導	29	34.5
	高齢者サロン	27	32.1
	疾病予防・進行防止のための栄養食事指導	24	26.2
	サプリメントのカウンセリング	11	13.1
	スポーツ栄養指導	10	11.9
	isCGM 機器実証試験	2	3.6
	在宅訪問薬剤師への同行	1	1.2
離乳食セミナー	1	1.2	

表 6 二次予防の実施意向（管理栄養士回答、n=84）

項目	回答者数（人）	割合（%）
1.二次予防を実施したいか		
積極的に実施したい	17	20.2
機会があれば実施したい	36	42.9
どちらともいえない	18	21.4
あまり実施したくない	11	13.1
実施したくない	2	2.4
2.1.で回答した選択肢とその理由		
○積極的に実施したい		
・やりがいを感じられそうだから。 ・薬局ならではの地域密着型の気軽に相談できる栄養士の業務に携わりたい。		
・管理栄養士業務を増やしたい。地域のお客様の体調が少しでも良くなるようにサポートしたい。		
・検査値の悩みだけでなく、服薬状況を加味した食生活への指導に興味がある。 ・重症化予防に寄与したいため。		
・管理栄養士としての経験を増みたい。 ・疾患の併発を防ぎ健康寿命の延伸に貢献するため。		
○機会があれば実施したい		
・一次予防までの指導がしたくて入社したため。 ・必要な患者様がいたら力になりたいと思う。		
・栄養士として働く機会を増やしたいから。 ・管理栄養士の知識を活かしたい、健康にさせたい。		
・経験を積みたいため。 ・知識がないので不安だが、機会があればやってみたい。		
・地域貢献のため。 ・地域のお客様の健康増進に携わりたい。 ・店舗業務と同時進行で行えたらやりたい。		
○どちらともいえない		
・栄養士業務から離れすぎて、最新の知識を持ってない為。		
・興味はあるが、疾病に関する栄養指導や薬との相互作用などについて十分な知識がなく自信が無いから。		
・二次予防の指導に関しての勉強会等があればやってみたいと思う。 ・経験が少ないので出来るか不安な面が大きい。		
・店舗業務と担当が忙しくてなかなか栄養士の仕事がバランスよくできません。 ・店舗業務が忙しいから。		
○あまり実施したくない		
・一次予防の方がやりたいから。 ・店舗の業務が楽しいのでそちらに集中したい。		
・知識を忘れていて指導するのに不安なため。 ・知識に自信がないため。 ・栄養指導を行う自信がないから。		
・病気や薬を服用している方への指導が不安。		
・店舗業務が忙しいため。 ・勉強会に参加する余裕もなく、業務過多のため。		
○実施したくない		
・自信がない、時間がない。 ・退職するため。		

表 7 一次予防の実施意向（管理栄養士回答、n=84）

項目	回答者数（人）	割合（%）
1. 一次予防を実施したいか		
積極的に実施したい	25	29.8
機会があれば実施したい	35	41.7
どちらともいえない	13	15.5
あまり実施したくない	10	11.9
実施したくない	1	1.2
2.1.で回答した選択肢とその理由		
○積極的に実施したい		
・一次予防に携わりたく、この会社に入社したため。 ・そのために入社したから。		
・管理栄養士だから。 ・管理栄養士としての経験を増みたいため。		
・管理栄養士業務を増やしたい。地域住民の方々の健康をサポートしたい。		
・特定保健指導が店舗の利益にも繋がるため積極的に行っていきたい。 ・地域の方々の健康を支援したいから。		
・管理栄養士としてのスキルを向上させたいから。店舗の売上に貢献したいから。		
・罹患していないことから一番取り組みやすそうだから。		
・食事により病気になる人が少なくなってほしいという気持ちがあるから。		
○機会があれば実施したい		
・ドラッグストアのお客様とのコミュニケーションとして魅力を感じるため。		
・一次予防はドラッグストアの栄養士だから身近に行えると思うため。		
・特定保健指導でなくても、自身の健康、食事について気になる方がいたら、時間が許す限り指導を行えたら、と思ったため。 ・やりたいとは思っているが、店舗の業務と両立が大変。		
・第一に一次予防をする必要があるから。 ・管理栄養士として様々な経験を積んでおきたい。		
・指導のスキルアップのため。 ・地域貢献のため。 ・地域の健康に携わることができるため。		
・店舗業務と平行してできるくらいの数であれば今後も取り組んでいきたい。		
○どちらともいえない		
・一次予防を行うことで幅広い人に対し疾病予防ができると思うから。 ・指導できる自信がない。		
・栄養相談の機会が少なかった為、今の知識で行えるかが心配。		
・やってみたいが仕事でそれどころではないため。 ・店舗の業務がまわらなくなりそうだから。		
○あまり実施したくない		
・自分の知識に自信がないから。 ・指導するのに不安なため。		
・しばらく栄養士業務をしていないため、知識が無くなってしまっている。		
・現在の仕事で時間がいっぱいだから。 ・店舗業務と両立するのが難しいと感じるため。		
○実施したくない		
・退職するため。		

の職業意識をはじめ、「重症化予防に寄与したため」など、管理栄養士として有しているスキルを活用した業務を行いたいなどが挙げられていた。一方、「あまり実施したくない」(11人, 13.1%)、「実施したくない」(2人, 2.4%)を選択した回答者(計13人, 15.5%)は、「一次予防の方がやりたいから」や、「知識に自信がないため」などの理由が挙げられていた。

一次予防を実施したいか問うた質問では、「積極的に実施したい」(25人, 29.8%)、「機会があれば実施したい」(35人, 41.7%)と、実施したいと考えている回答者は60人(71.5%)にのぼった。理由として、「一次予防に携わりたく、この会社に入社したため」や、「特定保健指導が店舗の利益にもつながるため積極的

に行っていきたい」などの回答が挙げられていた。一方、「あまり実施したくない」(10人, 11.9%)、「実施したくない」(1人, 1.2%)を選択した回答者(計11人, 13.1%)は、「店舗の業務がまわらなくなりそうだから」などの意見が多く挙げられており、「しばらく栄養士業務をしていないため、知識がなくなっている」など、実施したいが現在の就業環境やスキルレベルでは難しいと考えられるような意見が挙がっていた。

在宅患者訪問栄養食事指導への参加に関する質問(表8)では、「積極的に参加したい」(14人, 16.7%)、「比較的参加したい」(22人, 26.2%)と、参加意向は36人(42.9%)に留まっていた。最後に、栄養指導を行う際に不安な点(表9)

表8 在宅患者訪問栄養指導の参加意向(管理栄養士回答、n=84)

項目	回答者数(人)	割合(%)	
1. 在宅患者訪問栄養食事指導が薬局で認められた場合に、参加したいか	積極的に参加したい	14	16.7
	比較的参加したい	22	26.2
	どちらともいえない	28	33.3
	比較的参加したくない	12	14.3
	参加したくない	8	9.5

表9 栄養指導を行う際に不安な点(管理栄養士による自由記述回答を一部抜粋、n=45)

○知識に関する懸念
・入社してからずっと担当業務メインでたまに管理栄養士の仕事をするスタンスだったので、管理栄養士としての経験、知識がかなり少ないと思う。
・疾病をお持ちの方に対する栄養指導は、現状の経験や知識では不足していて、もっと勉強しなければならないと感じています。
・日頃から管理栄養士としての知識が常に発揮されているわけではないため、相談されたことについてしっかりと返答できるか不安です。
・管理栄養士の知識を定期的に学ばないと、栄養指導するのは不安。
・知識不足が心配です。間違えて伝えてしまったらどうしようと思う時があります。
・普段、なかなか指導している機会が少ないため知識が薄れている。
・知識不足、大学を卒業し、時間が経つと勉強したことを、忘れてしまう。
・その場でわからないことを先輩管理栄養士などに聞くことができない点が不安。
・他の管理栄養士と違い調理の経験が自炊のみなので調理に関する知識がなく不安です。
○実践に対する不安
・講義や勉強会には参加したが、実践経験が足りず臨機応変な回答が出来ない点。
・入社してから実際に栄養指導を行なったことがないため、自分の知識、スキルが足りているかどうか分からない為不安。
・コロナで色々な栄養指導を含むイベントがなくなっていて、栄養指導経験がないのが不安。
・病状に合わせた指導が的確に出来るか。 ・指導を間違えた時の医療訴訟。
○業務時間に関する懸念
・店長業務が忙しく、本来やりたかった栄養士としての活動への意欲も現状低迷しています。 ・時間に余裕がないから。
○その他
・疾病や薬の作用について知識が少ない点や、マニュアルや規定の記入用紙がないとどのような流れで行えばいいのかわからない点。
・フィードバックが欲しい。自分の指導が合っているかどうか、もっとこうした方がいいなど他者の視点が欲しい。
・医師との連携が必要になると思うが難しいのではないかと。 ・対象者とうまく打ち解けられるか。

表 10 テキストマイニングによる名詞および共起回数の出現頻度（上位 10 項目、n=45）

名詞	出現頻度 (回)	共起回数	出現頻度 (回)
知識	19	不安－知識	7
経験	9	知識－管理栄養士	6
不安	9	少ない－知識	5
栄養指導	8	不安－栄養指導	5
管理栄養士	8	栄養指導－知識	5
指導	7	知識－経験	5
知識不足	6	栄養指導－経験	5
業務	4	不安－管理栄養士	4
勉強	4	管理栄養士－経験	4
時間	4	不安－経験	3

について、テキストマイニングを実施した。名詞の出現頻度について、調査内容である「不安」(9回)、「管理栄養士」,「栄養指導」(8回)などを除くと、「知識」(19回)、「経験」(9回)、「知識不足」(6回)、「業務」,「勉強」,「時間」(4回)などが挙げられていた。さらに、共起語の出現頻度（一回答中における単語の組み合わせが発生した頻度）は、「不安－知識」(7回)、「知識－管理栄養士」(6回)、「少ない－知識」,「不安－栄養指導」,「栄養指導－知識」,「知識－経験」,「栄養指導－経験」(5回)「不安－管理栄養士」,「管理栄養士－経験」(4回)、「不安－経験」(3回)などがあった(表 10)。

4. 考 察

調査対象における管理栄養士の認知度は 51.9%と、過去の調査における 12%¹⁰⁾や 16.4%¹⁷⁾, 15.3%¹⁸⁾と比較して高い値を示した。これは、調査対象である保険薬局が、管理栄養士の認知向上に向けた多様な取り組みを行っている結果であると考えられる。例えば、管理栄養士の制服を桃色の衣服にすることで視覚的に認識しやすくし、店内放送や掲示物で管理栄養士の存在を知らせる活動が功を奏している可能性がある。しかし、それでも認知度が約半

数に留まっているのは、栄養や生活習慣病への関心が低い利用者が存在するためと推測される。なお、調査対象法人では、管理栄養士による 2021 年の年間栄養指導回数は 151 回（同一患者の継続指導を含む）にとどまり、管理栄養士の在籍数 186 名を考慮すると、1 名あたりの栄養指導回数は年間 1 件を下回っている。過去の調査では年間栄養指導回数の公開はないものの、より高い認知度でありながらも栄養指導活動は限定的といえる。

また、管理栄養士による栄養指導に関しては、特に生活習慣病に対する需要が高いことが明らかになった。生活習慣病の治療を受けている患者は、医療従事者からの指導を受けることで、食事や生活習慣への関心が高まり、栄養指導の有効性を認識している可能性がある。しかし、薬局管理栄養士が生活習慣病患者の食事療法への支援以外にも様々な職能を有していることや具体的な活用法については、十分に認知されていないことを示唆しているともいえる。

今回の調査では、薬剤師による栄養指導の実施経験と経験年数や服薬指導数など基本属性との関連性を調べたが、いずれも栄養指導の経験の有無による顕著な違いは見られなかった。また、患者からの求めがある場合

(20.7%)を除けば、薬剤師自身が必要だと認識するかどうかは栄養指導実施の主たる基準であることが分かった。患者との対話の中で、日々の食生活における課題や知識不足などに気づいた場合などが推測されるが、本調査では具体的な判断内容までは確かめておらず、個々の薬剤師による違いも考えられる。また、服薬状況のように必ず確認する内容とは異なり、積極的に患者の生活背景を把握する姿勢があるかどうかも影響するといえる。栄養指導を行わない理由として、「指導に自信がない」「合併症を考慮した指導が困難」などの声もあり、薬剤師自身の栄養に関する知識や理解が不十分であることが、栄養指導を躊躇する要因となっている可能性もある。本調査では栄養指導の内容を具体的には特定しておらず、今後の調査研究によって具体的に解明していくことが必要であろう。

回答した薬剤師の8割以上が、症状や検査値の改善が見られない、もしくは患者からの要望などにより、管理栄養士による指導を望んでいることが分かった。しかし、管理栄養士が多忙そうに見えることや、患者情報を共有する時間の余裕がないことなどにより、管理栄養士に指導を依頼することに不安を感じるという薬剤師が一定割合存在しており、この点について何らかの解決を図ることが薬剤師と管理栄養士との連携を促進することにつながるのではないかと考える。ただし、管理栄養士が在籍する薬局であったとしても、管理栄養士自身が全ての患者のニーズを把握することは現実的ではない。そのため、薬剤師はスクリーニングを目的として日々の食生活について聴き取りを行い得るような知識を備えておくことは必須要件といえる。これについては、日本臨床栄養学会が作成した「薬局薬剤師による食事・栄養の関わり方のガイドンス」¹⁹⁾の活用

が有用であろう。さらに、薬剤師が管理栄養士の専門性を理解することも重要である。栄養指導を受けることにより治療アウトカムの向上が期待できる患者であるかどうか、専門的な栄養指導が必要かどうかについて、薬剤師が適切に見極められるような手順の明確化も欠かせない。さらには、管理栄養士による専門的な指導とはどのような内容であるのかを知っておくことも、薬剤師が自らの役割を理解することに役立つと期待される。

管理栄養士の側でも、回答者の6~7割が一次予防もしくは二次予防としての栄養指導の実施に意欲を持っていた。これらを躊躇する要因として業務の多忙さを挙げる回答も多く、薬剤師が感じていたことに合致するといえる。また、管理栄養士という資格を有していても、長らくそうした業務に携わっていないことによる不安の声も少なくなかった。栄養指導における不安な点について、自由回答のテキストマイニングを実施した結果においても、「少ない知識」や「不安知識」など、「知識不足」を想起する共起語の出現が多く見られた。現場では、指導に不安を感じる管理栄養士に対して、十分な指導経験を持つ管理栄養士が立会いのもとで指導する対策が取られているが、薬局管理栄養士がその職能を発揮するためには、知識のアップデート、特に個々の疾患領域における最新の栄養ケアマネジメントに精通しておくことは大事な点であろう。その上で、日々の業務の中で効果的に個別患者への対応につながるような業務の流れを明確化することが必要と考える。

管理栄養士に指導を依頼するにあたって薬剤師が感じている懸念を解決するための提案として、さまざまなアイデアが寄せられた。定型化した「栄養指導依頼書」の活用、両職種参加の定期ミーティング、薬剤師から管理栄

養士への連絡手段の明確化など、いずれも店舗内での運用手順を決めて、関係者間で共有することが基本になるといえよう。さらに、これらを効率的・効果的に進めていくための工夫として、前述したように、薬剤師自身が一定範囲の栄養指導を行えるような準備を整えるとともに、管理栄養士による指導が必要と思われる場合には、「相談予約」という形を患者に提案することも有用と考える。管理栄養士の時間の余裕があるタイミングで実施することができ、オンラインでの実施が可能であれば、患者本人だけでなく、実際に調理を担当する家族にも一緒に聞いてもらうことで実践可能性が高まることも期待される。

患者、薬剤師、管理栄養士のそれぞれのニーズを調査した結果、「病気予防・改善」が利用者の関心事項で最も多く、管理栄養士に対する期待が高いことが分かった（表 1）。また、84.5%の薬剤師が管理栄養士の支援を必要としている（表 4）が、管理栄養士の中で疾病予防に関する栄養指導経験者は 26.2%にとどまっている（表 5）。これは、患者や薬剤師のニーズに対応するための管理栄養士の体制強化が必要であることを示している。管理栄養士の認知度向上とともに、体制の整備が求められる。今後の連携モデルの構築には、薬剤師がスクリーニングを通じて栄養指導が必要な患者を見極め、管理栄養士がその背景に基づいた専門的な介入を行う役割分担が重要である。双方がより良い治療アウトカムを目指すためには、相互の意識の共有が不可欠である。

本研究の結果は特定の地域・法人におけるものであり、外的妥当性には留意が必要であるが、今後の保険薬局における連携強化の示唆を与えるものである。

利益相反

開示すべき利益相反はない。

引用文献

- 1) 日本薬剤師会：薬剤師の将来ビジョン, <https://www.nichiyaku.or.jp/assets/pdf/vision.pdf>, 2023年11月1日アクセス.
- 2) 厚生労働省：「患者のための薬局ビジョン」～「門前」から「かかりつけ」、そして「地域」へ～, https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11121000-Iyakushokuhinkyoku-Soumuka/vision_1.pdf, 2023年11月1日アクセス.
- 3) 富永佳子, 長谷川美代, 薬局薬剤師と栄養専門職との連携—地域比較と今後への期待—, 新潟栄養・食生活学会誌, 24, 20-27 (2024).
- 4) 堀 由美子, 内田博之, 清水 純, 君羅好史, 小口淳美, 真野 博, 保険薬局・ドラッグストアに勤務する管理栄養士・栄養士の配置状況と就業の実態, 栄養学雑誌, 4, 242-252 (2021).
- 5) 一般社団法人 薬学教育研究会：令和4年度改定 薬学部モデル・コア・カリキュラム, https://www.mext.go.jp/content/20230227-mxt_igaku-100000058_01.pdf, 2023年11月1日アクセス.
- 6) 厚生労働省：令和4年度 管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン）改定検討会 報告書, <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001051592.pdf>, 2024年8月20日アクセス.
- 7) 日本糖尿病学会, 糖尿病診療ガイドライン2019, 南江堂, 2019 : 33-34.
- 8) 串田 修, 管理栄養士・栄養士資格取得者の就業の実態に関する調査研究：基本属性, 就業状況と職務満足度との関連, 日本栄養士

- 会雑誌, 64, 37-44 (2021).
- 9) 富永佳子, 長谷川美代, 盛岡正博, 荻野彰子, 朝倉俊成, 2型糖尿病患者における食事療法の理解度と体重・血糖管理に関する諸要因の検討. 糖尿病, 1, 8-18 (2021).
- 10) 堀 由美子, 薬局で薬剤師と連携し始めた管理栄養士, 薬剤師・管理栄養士のための今日からはじめる薬局栄養指導. 日経メディカル開発, 2017, pp.14-19.
- 11) Hayato Kizaki, Tomu Ota, Saki Mashima, Yoshimi Nakamura, Shoko Kiyokawa, Hidenori Kominato, Hiroki Satoh, Yasufumi Sawada, Satoko Hori, Questionnaire survey investigation of the present status of dietetic consultation at community pharmacies from the perspectives of registered dietitians and pharmacists. BMC Health Services Research. 21, 935-941 (2021).
- 12) Kanda Y. Investigation of the freely available easy-to-use software 'EZR' for medical statistics, Bone Marrow Transplant, 48, 452-458 (2013).
- 13) 小山雅明, 高橋由樹, 鶴田真理子, 長谷川光司, 椎塚久雄, 入店を誘引する看板に必要な要素の基礎的考察—テキストマイニングを用いた看板関連語の出現頻度分析とそのペ
- トリネットモデル—. 日本感性工学会論文誌, 16, 413-424 (2017).
- 14) 石井正和, 石橋正祥, ソーシャルメディアにおける受動喫煙に関連する質問の発言解析. 日本禁煙学会雑誌, 14, 72-75 (2019).
- 15) 新型コロナウイルス感染症流行拡大下におけるオンラインシステムを利用した遠隔病院実務実習生のアンケート結果. 医療薬学, 46, 739-746 (2020).
- 16) オンライン会議システムを活用した医療面接実習の実践とその評価. YAKUGAKU ZASSHI, 142, 661-674 (2022).
- 17) 壬生美咲, 戸田ちさと, 水野芳宏, 鈴木すみれ, 青森県内の薬局栄養士活動の認知度とニーズの調査, 日本薬局学会第学術総会講演要旨集, 17, 266 (2023).
- 18) 戸田ちさと, 壬生美咲, 鈴木すみれ, 水野芳宏, 宮城県における保険薬局で活動する管理栄養士の患者認知度とニーズ調査. 日本薬局学会第学術総会講演要旨集, 17, 266 (2023).
- 19) 日本臨床栄養学会: 薬局薬剤師による食事・栄養の関わり方のガイドンス, https://www.jcna.jp/file/20230218_jcna.pdf, 2024年3月10日アクセス.